



## 【脳科連連携法人一般会員のご挨拶文】上野 太郎 (サスメド株式会社 代表取締役社長)

サスメドの上野 太郎と申します。私は 2006 年に東北大学医学部を卒業し、臨床研修後に熊本大学発生医学研究所にて睡眠の分子生物学・神経科学にて学位を取得しました。その後、日本学術振興会特別研究員や東京都医学総合研究所での研究員を経て、2015 年にサスメド株式会社を創業しております。大学院時代より睡眠障害の外来診療を継続しており、現在も公益財団法人 神経研究所附属晴和病院にて週に 1 日、睡眠障害の外来診療を続けさせていただいております。

弊社事業としては、プログラム医療機器 (SaMD: Software as a Medical Device) として治療用アプリを開発するほか、近年医療課題となっているドラッグロスを解消するための治験効率化を進めております。プログラム医療機器に関しては、不眠症の治療用アプリで医療機器承認を取得し、現在保険収載の手続きを進めているほか、慢性腎臓病、耳鳴、月経前症候群など、様々な診療科・疾患領域での開発を進めております。不眠症の治療用アプリは、私自身、臨床現場で診療をする中で日々実感するエビデンス・プラクティスギャップを埋めることを目指し、起業のきっかけとなった開発品でもあり、患者さんや医療現場の先生方に不眠症治療の選択肢としてお届けできればと存じます。

日本ではまだまだ認知度の低いプログラム医療機器ですが、海外では多数のプログラム医療機器が承認・上市され、医療現場での活用が進んでおります。2023 年に改訂された欧州の不眠症治療ガイドラインでは、これまで第一選択として明記されていた対面の認知行動療法に加え、デジタルによる認知行動療法が治療の第一選択として位置付けられ、薬理的介入はその後に実施することと記載されています。日本では今年、18 年ぶりに診療科名として睡眠障害科が追加されることが、日本睡眠学会の要望を元に方針が示されました。その中でも安易な睡眠薬の処方を受け、適切な治療提供が望まれており、医療現場の負担を増すことなく推奨される治療法を提供する一助として、プログラム医療機器が貢献できたら幸いです。

最後に、アカデミアの研究をイノベーションの社会実装を通じて世の中に届けるための取り組みとして、一般社団法人 全国医学部発ベンチャー協議会 (通称 JAMZ) のご紹介をいたします。岡野 栄之先生を代表理事、坪田 一男先生を副代表理事として立ち上がった活動で、科学技術・イノベーション基本法として明記されたイノベーションの創出を、医学部発ベンチャーとして実現する後押しを行なっております。2026 年からは東京都のスタートアップ支援事業にも採択され、体系的な講義や多数のイベントが企画されておりますので、先生方のご研究成果の社会実装や、アントレプレナー教育にご関心がございましたらご覧いただけますと幸いです。

脳科連の先生方には長きに渡り様々なご指導をいただいておりますこと、この場を借りて感謝申し上げます。

## 【第 32 回リレーエッセイ】日本脳科学会理事長 松崎 秀夫

日本臨床精神神経薬理学会理事長の古郡 規雄先生よりご指名をいただき、リレーエッセイの筆を執りました。日本脳科学会理事長を務める松崎 秀夫と申します。

日本脳科学会は、GABA・GABOB およびその関連物質研究会 (昭和 34~48 年) と日本条件反射学会 (昭和 34~48 年) を母体とした脳研究会 (昭和 49~平成 6 年) を前身としており、以来 30 年にわたって脳科学に関する学術活動を展開した伝統ある学会です。あまたの神経科学領域関連学会を網羅する日本脳科学関連学会連合の中にあつて、本学会は会員数も約 170 名と比較的小規模であることは否めません。けれども他の学会にない特色として、独自の学際領域開拓と若手研究者の育成・支援があげられます。

昨年、第 52 回日本脳科学会は浜松医科大学の佐藤 康二教授を大会長として、2025 年 11 月 29 日 (土)・30 日 (日) に浜松市地域情報センターにて開催されました。大会テーマ「伝える・つなぐ・未来へ!!」のもと、本学会の最大の強みである脳と心に関する基礎から臨床、さらに心理や教育分野の研究者が参加しました。本学会では、多分野の研究者が若手/中堅/ベテランの別なく一堂に会し、脳科学について語り合うスタイルを続けてまいりましたが、浜松大会では 18 歳の学部学生から御年 100 歳の功労会員の先生まで、世代を超えて一つの会場で共に白熱した議論を交わし、有望な若手研究者の表彰も行いました。

本年、第 53 回日本脳科学会は 2026 年 11 月 28 日 (土)・29 日 (日) に秋田県の秋田市民プラザにて秋田大学大学院医学系研究科の板東 良雄教授が主催されます。社会に貢献するイノベーションの確立には異分野の融合と若い力が必要であり、日本脳科学会は今後も独自の歩みを続けます。脳科連の皆様におかれましても、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

今回のリレーエッセイは日本心理学会の理事長 唐沢 かおり 先生にバトンタッチされます。

## 【日本学術会議公開シンポジウム「生物知性と人工知性の融合が生み出す未来」開催について】

日本学術会議・基礎医学委員会・神経科学分科会委員長 柚崎 通介

日本学術会議・臨床医学委員会・脳とこころ分科会委員長 高橋 良輔

現在、文部科学省では、「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想 - ロードマップ 2026 -」の公募が行われています。神経科学分野においてもこの機会を確実に生かし、採択の実現につなげていくことが強く期待されています。そのため、日本脳科学関連学会連合ならびに日本学術会議神経科学分科会・脳とこころ分科会等において議論を重ねてまいりましたが、その活動の一環として、このたび、公開シンポジウムを開催することといたしました。

最先端の技術や知見を結集し、人類未踏の研究課題に挑戦して当該分野の飛躍的発展を実現するためには、このような「大型プロジェクト」が不可欠です。これまでも、大型加速器や電波望遠鏡をはじめとして、主に物理学や天文学の分野でさまざまな大型プロジェクトが推進され、大きな成果を挙げてきました。神経科学分野においても、国際的に先導的な研究をさらに発展させ、日本発の研究基盤と研究力を一段と強化していくためには、大型プロジェクトの推進が強く求められています。

一方で、大型プロジェクトには多額の経費を要するため、研究者コミュニティにおける周到的準備に加え、社会や国民からの幅広い理解と支持を得ることが不可欠です。今回の提案は、日本学術会議の「未来の学術振興構想(グランドビジョン)」に採択された、日本脳科学関連学会連合および日本神経科学学会による提案に基づくものです。神経科学分野の今後の発展のためにも、ぜひ多くの研究者の皆様にご参加いただき、積極的なご意見、ご助言、ご支援を賜れば幸いです。

公開シンポジウム「生物知性と人工知性の融合が生み出す未来」

◆開催日時:2026年5月9日(土)14:00-17:00

◆形式:オンライン

◆主催:日本学術会議基礎医学委員会神経科学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会

◆共催:日本脳科学関連学会連合

◆後援:一般社団法人日本神経科学学会、一般社団法人日本神経化学会、一般社団法人日本神経回路学会、  
大学共同利用機関法人自然科学研究機構生理学研究

## 【第13回脳科学オリンピック参加者募集のお知らせ】 脳科学リテラシー委員会委員長 奥村 哲

今年も、第13回脳科学オリンピック日本大会(International Brain Bee 日本大会)を開催致します。予選テストは4月25日~5月10日の日程でオンライン。受験する3日前までに申し込んだ試験会場(パソコン教室など)で挑戦できます。

本大会は、中高生を対象に脳科学への関心を高め、将来の神経科学人材の育成を目的として実施している国際的な教育プログラムです。国内予選の上位入賞者はさらに対面の日本代表選抜大会に進み、優勝すると日本代表として世界大会に出場します。

貴学会におかれましても、関連する中高生・教育関係者の皆様への周知にご協力いただけますと幸いです(ウェブサイト掲載、メール配信等)。入賞者には、ラボ見学や学会の招待の機会を用意したいと考えております。何卒ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

詳細は下記リンクをご参照ください。

<https://www.brainscience-union.jp/brainbee/brainbee2026>

## 【活動報告(2月~3月)】

- ・第46回運営委員会(3月3日)
- ・第34回評議員会(3月14日)

## 【事務局だより(主に会員学会事務局向け)】

- ・評議員の変更がございましたら、事務局までご連絡をお願いいたします。
- ・メールマガジン内容へのご意見やお問い合わせは、貴学会の事務局経由でお願いします。